



# 『東北圏だより』

## 東日本大震災から3年

### 宮城復興局

東日本大震災から3年となります。これまでの被災地の復旧・復興に向けた関係者皆様のご尽力に厚く感謝を申し上げます。

復興庁では、現場主義の徹底、司令塔機能の強化、復興のステージ（時間軸）に応じた取組の3つの方針を基本に、スピード感を持って施策を実行してまいりました。

おかげ様で、被災地はいよいよ本格的な復興フェーズへと移っています。宮城では、災害廃棄物の処理が平成26年3月末までにすべて完了する予定です。本年は、住まいの再建をはじめとする各事業が本格化します。防災集団移転促進事業については、既に全体の8割にあたる152地区が造成工事に着手されており、災害公営住宅については、全体の概ね半数にあたる約7,100戸が26年度内に供給される見込みです。



▲防集事業で造成された土地の見学会  
(岩沼市玉浦西地区)



▲防集移転先での戸建て住宅建築  
(岩沼市三軒茶屋地区)

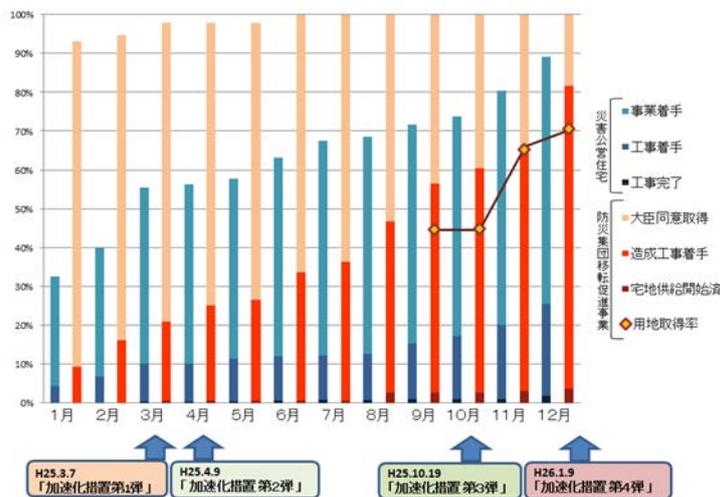


▲入居済みの災害公営住宅  
(山元町新山下駅周辺地区)

住宅再建・インフラ工事の本格化に伴い、今後も様々な課題が発生すると予想されます。復興の一層の加速化のためにも、定期的に計画と工程表を見直し公表する、さらには「住宅再建・復興まちづくりの加速化措置」を活用するとともに、現場の個別事情による課題を丁寧に吸い上げ、迅速に対応してまいります。

また、生業の復興の観点から、二重ローン対策、資金繰り支援、地域復興マッチング「結の場」などの産業支援、被災者の心のケアや見守り、生きがいづくりへの支援など、長期化する避難生活への支援も継続してまいります。

さらに、域外から若い力を呼び込む「復興支援インターン」や、「新しい東北」プロジェクトを通じた我が国や世界の先導モデルとなる地域づくりにも取り組んでまいります。



▲宮城県の災害公営住宅・防災集団移転促進事業の進捗状況



▲結の場発プロジェクト「霞マルシェ 2013」根本大臣訪問



▲復興支援インターンの様子（大学生の被災企業職場体験、学祭での情報発信）



集中復興期間もあと2年となり、本年が正念場です。避難生活の解消が進み、被災者の方々が取り戻した日常の中で「復興」を実感していただける1年となるよう、宮城復興局としても引き続き取り組んでまいります。皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

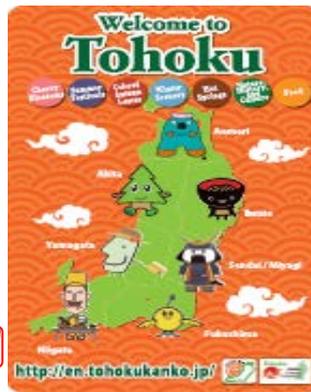
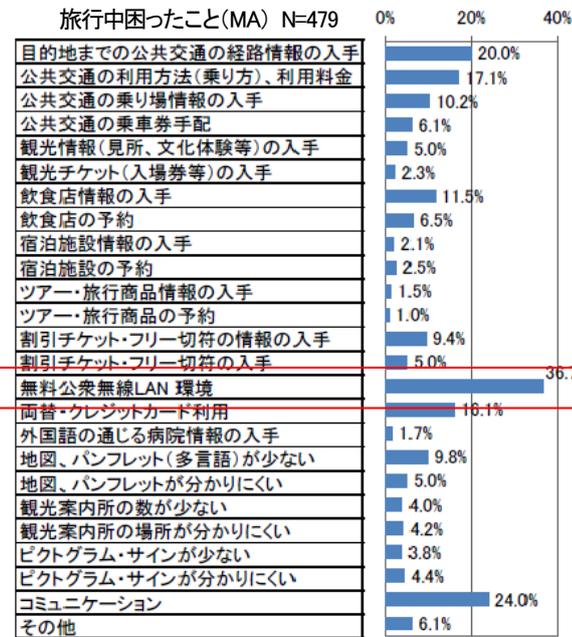
東北観光推進機構、東北運輸局、NTT 東日本は、NTT 東日本の「光ステーション」を活用した、短期滞在外国人旅行者が東北各地の観光施設やホテルなどで利用できる無料Wi-Fi サービス(公衆無線LAN 環境)について、東北7県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県)・仙台市と連携し、これまで東北の一部の地域で展開していた当該サービスを東北全域に拡大しました。

訪日外国人旅行者数は、日本全国としては1割弱に回復し、震災前の水準を超えましたが、東北地域ではまだ震災前水準を下回っている状況にあります。また、観光庁の調査によれば、訪日外国人旅行者の3人に1人が、旅行中に困ったこととして「無料Wi-Fi サービスがないこと」をあげています。これらの課題に対し、オール東北の取組として、最もニーズの大きい無料Wi-Fi サービスを拡大することで、東北への外国人旅行者数の回復・拡大につなげます。

さらに、無料Wi-Fiが使えることで、外国人旅行者が東北各地の滞在先からスマートフォンやタブレット端末を使ってSNSなどで感動を発信できるようになり、海外における「東北」の風評被害払拭、認知度向上にもつながると期待しています。

短期滞在の外国人旅行者を対象に、観光施設やホテルなど各地の「光ステーション」提供エリアにおいてキャリアフリーでWi-Fi インターネットを14日間無料接続できるサービスを提供します。本サービスの利用に必要な「ID/PASSカード」は空港、観光案内所など72箇所配布します。アクセスポイント(レストラン、ホテルなど)は約11,000箇所(平成25年12月現在)になっております。

今後は、アクセスポイントとなるエリアの拡大を進めるほか、チラシ等を活用して、ビジットジャパン地方連携事業や自治体の独自の海外プロモーションで積極的に周知を図ることにしています。



※ID/PASSカード

※観光庁調査



※PRチラシ

「美しき桜心の物語」の語り会が開催されます！

来る5月1日(木)に盛岡市民文化ホールにおいて「第三回〜桜の札所五十九番・盛岡城跡公園〜「美しき桜心の物語」の語り会」が開催されます。

このイベントは「美しい山形・最上川フォーラム」と「美しい多摩川フォーラム」が連携・協働し、東日本大震災からの復興支援を旨とし立ち上げた「東北・夢の桜街道推進協議会」が主催するものです。東北6県の知事や航空・鉄道会社、信用金庫業界なども賛同し、官民を挙げた運動を展開しています。

東北における八十八カ所の桜の札所を選定し、札所巡りの旅行商品等を開発するなど「桜」を震災からの再生のシンボルに掲げ、震災後10年間広域的な地域支援活動を継続的に実施することとしています。

その一環として、毎年、桜の時期に「語り部・平野啓子氏による「美しき桜心の物語」の語り会」が開催されています。3年目にあたる今年は、5月1日(木)に盛岡市民文化ホールで催されます。

みなさま、お問い合わせの上、幻想的な「桜の語り」に身をゆだねてはいかがでしょうか。

詳しくは、こちらから → <http://www.tohoku-sakurakaido.jp/>



『鶴岡山王商店街振興組合』が手づくり郷土賞に選定されました。

東北地方整備局 企画部 企画課

地域づくりに取り組む活動団体等の優れた地域活動を表彰する「手づくり郷土賞」は、今年度で28回目の開催となる国土交通大臣表彰制度です。

今年度は、東北地域から唯一山形県鶴岡市『商店街「みち広場」の整備と運営による賑わいづくり～デイバザール ナイトバザール、夢やたい』（鶴岡山王商店街振興組合）が選定され、2月21日に鶴岡市役所にて認定証授与式が開催されました。



▲認定証授与式の様子

鶴岡市中心部に位置している「山王商店街」は、現道を拡幅する計画で都市計画決定されている地域ですが、事業が具体化するにあたり、支障となる店舗の廃業等により、地域の衰退につながるのではないかと懸念が生じました。そのような事態を回避するため、まちづくりワークショップを活用し議論を重ね、現道幅員のまま整備し、車道と歩道を区別することなく、道路全体を「みち広場」として活用することとした結果、支障店舗を発生させることなく、地域が一体感を保ったまま整備することができました。

また、20年以上も継続して、第3土曜日に「ナイトバザール」を開催し、道路が整備されてからは、毎週土曜日に「デイバザール」「さんのう夢やたい」も開催するなど、商店街のみならず多くのボランティアや学生たちと会場を盛り上げ、市民や観光客で賑わう商店街づくりが進められています。このような取組の他にも、既存の社会資本をうまく利活用し、行政と地域住民が協力して、中心部の賑わいづくりや新しい発想からのまちづくりという視点や活動が、外部有識者で構成する選定委員会でも非常に高い評価を得て、今回の受賞となりました。受賞団体からは「商店街は、買い物だけではなく、歴史文化など多くの役割を担ってきました。次の世代につないでいけるよう努力していきたい」と新たな決意を述べられていました。



▲ナイトバザールの様子



▲デイバザールの様子

編集後記

3月11日で東日本大震災から三周年となります。震災発生により多くの尊い命が失われ、沿岸部を中心に甚大な被害を受けました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。

街づくりを通して一日も早い被災地の復興と被災者の生活再建に真摯に取り組んでいきたいと思っております。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp